

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2009.11

No.94

会報

目次

■ 平成 22 年度（第 32 回）通常総会のご案内	1
■ 第 32 回（2009 年）日本分子生物学会年会開催のお知らせ（その 3）	2
■ 日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内	5
■ 日本分子生物学会 若手教育ランチョンセミナー 2009 「あなたのデータは大丈夫？ 正しい知識があなたを救う！」	5
■ 日本分子生物学会第 10 回（2010 年）春季シンポジウム 「分子は語る、分子で語る」のご案内	6
■ 学会誌『Genes to Cells』に関するお知らせ	8
■ 男女共同参画委員会活動報告	9
■ 第 1 回将来計画検討委員会報告	10
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について	11
■ 各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ	12
○ 第 10 回日本蛋白質科学会年会	
○ 千里ライフサイエンス国際シンポジウム 「2010 Senri Life Science International Symposium on “Future Outcome of Stem Cell Research Today”」	
■ その他	13
○ 平成 22 年度新化学発展協会研究奨励金のご案内	
■ 第 16 期役員・幹事・各委員会名簿	14
■ 賛助会員芳名	



特定非営利活動法人

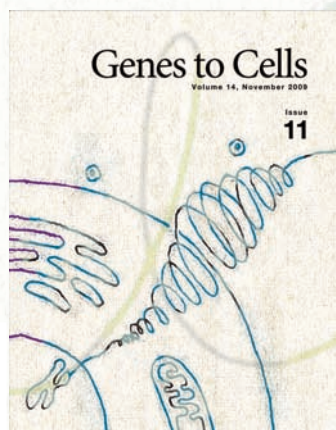
日本分子生物学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/mbsj/>

日本分子生物学会学会誌

Genes to Cells

Edited by: Mitsuhiro Yanagida | Frequency: Monthly
Current Volume: 14 / 2009 | Impact Factor: 3.137



日本分子生物学会学会誌 *Genes to Cells* は分子生物学において最新の研究成果を発表する先駆的かつ国際的な学会誌として世界各国で読まれています。

また、本誌はオンライン投稿、査読課程の効率化、オンライン早期出版などのさまざまな著者向けサービスを提供してきました。

この度、競争の激しい分野での研究論文をできるだけ早く公表したいという方の為、オープンアクセスシステム「OnlineOpen」を導入しました。

OnlineOpenとは、自身の研究成果を *Genes to Cells* に投稿する際、投稿著者または研究助成団体が定額費用(US\$3,000)を負担することにより、論文出版後すべての読者に向けて直ちにWiley InterScienceで無償公開するというオプションです。

是非 *Genes to Cells* への論文投稿をお待ちしています

オンライン投稿はこちら

<http://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

引用数TOP論文リスト 2008年出版論文

Transport of phosphatidylinositol 3-phosphate into the vacuole via autophagic membranes in *Saccharomyces cerevisiae* (Volume 13, Issue 6)

Keisuke Obara, Takeshi Noda, Kaori Niimi, Yoshinori Ohsumi

Structural basis of target recognition by Atg8/LC3 during selective autophagy (Volume 13, Issue 12)

Nobuo N. Noda, Hiroyuki Kumeta, Hitoshi Nakatogawa, Kenji Satoo, Wakana Adachi, Junko Ishii, Yuko Fujioka, Yoshinori Ohsumi, Fuyuhiko Inagaki

Recognition of forked and single-stranded DNA structures by human RAD18 complexed with RAD6B protein triggers its recruitment to stalled replication forks (Volume 13, Issue 4)

Yuri Tsuji, Kenji Watanabe, Kimi Araki, Masanori Shinohara, Yuriiko Yamagata, Toshiki Tsurimoto, Fumio Hanaoka, Ken-ichi Yamamura, Masaru Yamaizumi, Satoshi Tateishi

ジャーナル閲覧ページ www.interscience.wiley.com/journal/gtc

日本分子生物学会の会員はオンラインジャーナルに無料でアクセスしていただけます。

ユーザー登録をご希望の方は日本分子生物学会事務局までお申し込みください。

日本分子生物学会事務局: info@mbsj.jp

登録後のアクセスに関するご質問は、Wiley-Blackwellカスタマーサービスにて承ります。

Wiley-Blackwellカスタマーサービス: cs-japan@wiley.com

 WILEY-BLACKWELL

平成 22 年度（第 32 回）通常総会のご案内

平成 21 年 11 月

正会員・名誉会員 各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 岡田 清孝

以下の要領で第 32 回通常総会を開催いたしますので、多くの会員のご出席をお願い申し上げます。ご存知のように、本会は一昨年、特定非営利活動法人となり、重要案件は総会で決定されます。総会の成立には、正会員＋名誉会員の 1/2 以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様の積極的なご出席をお願いいたします。

つきましては、同封はがきにてご出欠予定をお知らせください。やむを得ず、ご都合がつかない場合には、必ず、委任状（同封はがき）をご提出下さるようお願い申し上げます。

記

日 時：平成 21 年 12 月 11 日(金) 11：30～12：00

場 所：パシフィコ横浜 会議センター 3 階 第 7 会場（311＋312）

予定議題：1) 経過報告（理事長報告、編集報告、庶務報告、その他）

2) 21 年度（2009 年度）決算承認の件

3) 22 年度（2010 年度）予算ならびに事業計画承認の件

4) 定款変更の件

※平成 20 年 12 月、都の条例（特定非営利活動促進法施行条例）が改正され、総会における欠席者の表決権（委任状）につき電磁的方法が認められるようになりました。

本総会において該当条文変更の承認について、お諮りいたします。（来年度の総会より適用予定）

■電磁的方法の追加について

条文	（変更後の案）	（現行の定款）
第 24 条 第 3 項	3 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。	3 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催の日の少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。
第 28 条 第 2 項	2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員及び名誉会員は、あらかじめ通知された事項について、書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員及び名誉会員を代理人として表決を委任することができる。	2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員及び名誉会員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は他の正会員及び名誉会員を代理人として表決を委任することができる。
第 29 条 第 1 項	総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。 (1) 日時及び場所 (2) 正会員及び名誉会員総数及び出席者数（書面又は電磁的方法による表決者若しくは表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。） (3) 審議事項 (4) 議事の経過の概要及び議決の結果 (5) 議事録署名人の選任に関する事項	総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない (1) 日時及び場所 (2) 正会員及び名誉会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。） (3) 審議事項 (4) 議事の経過の概要及び議決の結果 (5) 議事録署名人の選任に関する事項
附則	この定款は、東京都より定款変更認証を受けた平成 年 月 日から施行する。	

第 32 回日本分子生物学会年会 開催のお知らせ（その 3）

分子生物学会の原点 —すべては議論から—

会 期：2009 年 12 月 9 日(水)～12 日(土)（4 日間）
会 場：パシフィコ横浜
年 会 長：小原 雄治（情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所）
副 年 会 長：荒木 弘之（情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所）
年会事務局連絡先：第 32 回日本分子生物学会年会事務局
〒 532-0003 大阪市淀川区宮原 4-4-63 新大阪千代田ビル別館 9 階
Tel：06-6350-7247 Fax：06-6350-7248 E-mail：mbsj2009@aeplan.co.jp
URL：http://www.aeplan.co.jp/mbsj2009/

※年会開催の詳細は同封のプログラム集をご参照ください。

【年会の開催にあたって】

第 32 回日本分子生物学会年会は本年 12 月 9～12 日の 4 日間、横浜にて開催いたします。今回は「分子生物学会の原点—すべては議論から—」というテーマといたしました。

分子生物学会の年会は合同年会も含め例年盛会で、参加者も数千人に及ぶようになりました。しかし、巨大になったがゆえに十分な議論が出来ない、いろいろな人に出会いにくいということが起こっているように思います。分子生物学会年会のよさはやはり学生から大先生までが分け隔てなく「議論すること」に尽きるのではないかと考えました。そして年会に行けばいろいろな人に出会えることだと思います。本年会の企画にあたり、これらの点を何とかできないかと考えました。これに「国際性」を加えて 2 本柱とし、避けて通れない「社会性」、方法論として「IT の活用」についても考慮いたしました。

「国際性」については、各シンポジウムに分野の第一線で活躍している海外の PI を 2 名以上招いてもらいました。国際水準の議論を期待したいと思います。また、ポスター会場に「Meet the Symposists」のコーナーを設け、当日のシンポジストと議論できる場を作りました。さらに、シンポジストには時間が許す限りポスターセッションにも「参戦」してもらいます。このためにシンポジウムは要旨・講演ともに英語とし、その他はポスターを含め要旨は英語での執筆を推奨いたしました。

「議論」の活性化のためにはポスター会場での発表／討論を重視しました。多くのポスターは若い人が徹夜をして作ってきたものだと思います。それを十分に活用しない手はありません。そこでポスターセッションのなかにディスカッサー制度を企画いたしました。すべてのポスターについて、経験豊かなディスカッサーが分担して発表者に対して議論をふっかけていただきます。組織委員会でも賛否両論がありましたがあえてやってみることにしました。これらのこともあり、ポスターセッション中は他の企画は一切入れず、1 時間延長し、その後にミキサーも予定しております。横浜会場はポスター発表を一つの会場で行えますので全参加者が一同に集うことになります。熱い議論が続くことを期待しております。

「IT の活用」については、今回思い切って要旨集はオンライン化し、印刷物はやめることにしました。プログラム集はこれまでどおり印刷物を作成・送付しますし、参加登録者はパスワード・ID を用いて年会ホームページから事前に要旨等の閲覧・検索・ダウンロードができます。会場では PC・携帯電話にて検索・閲覧・その他サービスを利用できるようにいたします。いろいろな活用が考えられると思います。

「社会性」につきましては、男女共同参画、若手倫理教育、さらにはポストク問題に対応して企業の人や研究者以外の人たちの接点創成など、様々な企画をサイエンスセッションとのバランスを考慮しつつ企画いたしました。また、横浜近辺の高校生の見学企画も進行中です。恒例になりましたナショナルバイオリソースプロジェクトの実物展示も行います。

次世代シーケンス技術やイメージング技術に象徴されるように、生命科学は大きく様変わりしております。第 32 回日本分子生物学会年会が実りある議論・情報交換の場となり、分子生物学の更なる発展のきっかけとなることを期待し、横浜で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

最後に、これまでに多くの方々からいただきましたご協力に対して厚くお礼申し上げます。

第 32 回日本分子生物学会年会 年会長
小原 雄治

【プログラム】

シンポジウム

ワークショップ

ポスター

(※プログラム集に掲載された演題に加え、9月初旬の一般演題投稿締切後の新たな研究結果等に基づく Late-breaking Abstracts 枠の発表も行われます。)

フォーラム

バイオテクノロジーセミナー

第7回日本分子生物学会三菱化学奨励賞受賞講演

若手教育シンポジウム

男女共同参画ランチョンワークショップ

博士キャリア相談会

市民公開講座

機器・試薬・書籍等附設展示会

特別企画「ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP)」

サテライトシンポジウム

【参加登録に関するご案内】

参加手続きについて

事前参加登録受付は10月30日(金)に締め切りました。

事前参加登録をされた方は、受付の必要はありませんので、11月下旬ごろに送付する参加章(名札)をご着用のうえ、そのまま会場へご入場ください。なお、参加章は、年会ホームページより事前参加登録を行い、11月5日(木)までに参加費を振り込まれた方へのみお送りしております。参加費の振込みがない場合は、事前参加登録は無効ですので、会場にてあらためて当日参加登録を行ってください。

参加章には氏名と所属を記入し、年会会場では必ずご着用ください。参加章を着用されていない方の入場は固くお断りいたします(12月12日(土)市民公開講座を除く)。

参加受付窓口

窓 口	場 所	受付時間	受付内容
第1受付	会議センター2階	8:00～16:00 (12月12日(土)は12:00まで)	当日登録受付・総合案内 学会入会・宿泊案内・他各種ご案内
第2受付	展示ホール1階	8:00～17:30 (12月12日(土)は14:00まで)	当日登録受付のみ

当日参加登録費

正 会 員	学生会員	非会員	学部学生
10,000 円	6,000 円	13,000 円 ※プログラム集含む	学生証提示により無料 ※院生は対象外

※国内参加者のお支払いは現金のみとなります

【プログラム検索・オンライン要旨閲覧システムの利用について】

本年度の年会の講演要旨集はオンライン化し、印刷物や CD-ROM を作成しません。

参加登録者は、11 月 20 日(金)より、パスワード・ID を用いて年会ホームページから要旨等の閲覧・検索・ダウンロードができます。

年会当日は、インターネットコーナー（会議センター B1 階、展示ホール 1 階）を設置しておりますので、ご利用ください。また、年会会場では無線 LAN もご用意いたしますので、ご自身の PC を用いてオンライン講演要旨集へアクセスいただくことも可能です。

さらに、携帯電話からもプログラム検索・要旨閲覧システムをご利用いただけます（機種によっては動作しない場合があります）。ただし、携帯電話からのシステムご利用の場合、通信した情報量に応じてパケット料金が発生いたしますので、あらかじめ各自の携帯電話会社によるパケット定額サービスにご加入いただくことを強く推奨いたします。

参加登録されていない方も、ログインなしにプログラム検索のみ可能です（要旨の閲覧・ダウンロードはできません）。ログイン方法など、詳しくは年会ホームページをご確認ください。

〈プログラム検索・オンライン要旨閲覧システムはこちらから〉

年会ホームページ <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2009/>

※11 月 20 日(金)より利用可能。

年会終了後、3 ヶ月を経たのちにシステムを閉鎖します。

【新型インフルエンザ流行に関する参加者へのお願い】

新型インフルエンザが流行しております。参加者におかれましては、各自、予防・体調管理等の対応をお願いいたします。参加者は、感染予防として、手洗い・うがい・咳エチケットの励行をお願いします。

手指消毒液を会場各所に設置しますので、入館等の際には手指消毒をお願いします。また、参加者は各自必要に応じてマスクをご持参ください。

参加者にインフルエンザ様症状がある場合には、参加の自粛をお願いいたします（自粛いただいても、納入済みの参加費は返還いたしかねますので、予めご了承ください）。

日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内

「第7回（2009年）日本分子生物学会三菱化学奨励賞」の授賞式および受賞講演を下記の要領により開催いたします。

【授賞式および受賞講演】

日 時：2009年12月11日(金) 12:00～13:00

場 所：パシフィコ横浜 会議センター 3階
第7会場（311 + 312）

【第7回日本分子生物学会三菱化学奨励賞 受賞者】

稲葉 謙次（九州大学生体防御医学研究所 特任准教授）
（研究題目）

細胞品質管理に関わるタンパク質ジスルフィド結合形成・開裂因子の構造基盤の確立

Structural basis of protein disulfide formation and cleavage factors involved in protein quality control in the cell

小松 雅明（東京都臨床医学総合研究所 副参事研究員）
（研究題目）

健康と病態における選択的オートファジーの先駆的研究

In-depth analysis of selective autophagy in health and disease

日本分子生物学会 若手教育シンポジウム

若手教育ランチョンセミナー 2009 —あなたのデータは大丈夫？ 正しい知識があなたを救う！—

●日 時：2009年12月10日(木) 11:45～13:00

（年会2日目）

●会 場：パシフィコ横浜 会議センター 3階 301（300席）

●司 会：上田 泰己（理化学研究所）
後藤由季子（東京大学）

第一部：講 演（35分）

山中 伸弥（京都大学）

「科学的不正とは？ —その定義と問題点—」

中山 敬一（九州大学）

「ゲル画像の修正はどこまで許されるのか？

Photoshopの正しい使い方」

水島 昇（東京医科歯科大学）

「顕微鏡データの誤った解釈」

加藤 茂明（東京大学）

「微妙なデータをどう表現するか」

第二部：聴衆参加型パネルディスカッション（40分）

パネリスト：日本分子生物学会・若手教育問題

ワーキンググループ

上田 泰己（理化学研究所）、上村 匡（京都大学）、

加藤 茂明（東京大学）、後藤 由季子（東京大学）、

白髭 克彦（東京工業大学）、中山 敬一（九州大学）、

水島 昇（東京医科歯科大学）、山中 伸弥（京都大学）

※会場の皆様にはレシーバーをお配りし、皆様のご意見をリアルタイムに前方画面に表示する『レスポンスシステム』を導入します。

若手教育シンポジウムも第3回目をむかえました。今年はランチョン形式で、より具体的な方法論についてレクチャーを行い、それに対して皆様の意見をそのままリアルタイムで表示できるレスポンスシステムを導入して相互討論ができる場を作りました。もちろんお弁当とお茶も用意いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

主催：特定非営利活動法人 日本分子生物学会

協賛：(株)羊土社 協力：チエル(株)

日本分子生物学会第 10 回（2010 年）春季シンポジウムのご案内

第 10 回を迎える 2010 年の分子生物学会春季シンポジウム「分子を語る、分子で語る」は、日本三景の 1 つとして知られ、JR 仙台駅から電車で 30 分程度と交通の便も良い松島でおこないます。

第 1 回以来となるスクール形式（1 泊 2 日）で開催いたしますので、学生やポスドクなど若手の方に多くご参加いただき、ともに学びながら活発な議論のできるシンポジウムとなるよう企画を検討しています。

詳細は 2010 年 1 月に開設予定の春季シンポジウム専用ホームページなどで随時ご案内いたしますが、参加定員は 300 名となりますので、ポスター発表の申し込みや宿泊予約はお早めをお願いいたします。

【第 10 回春季シンポジウム】

会 期：2010 年 6 月 7 日(月)～ 8 日(火)

会 場：ホテル松島大観荘（宮城県宮城郡松島町）

定 員：300 名

プログラム：基調講演 菅 裕明
（東京大学先端科学技術
研究センター）

「遺伝暗号リプログラミング：
生物の根底を書き換える」

山本 雅之

（東北大学大学院医学系研究科）

「環境応答の分子基盤」

ワークショップ 4 セッション

また、シンポジウム前日には「医療につながる分子生物学（仮）」と題した市民公開講座を仙台市博物館にて開催いたします。ちょうど博物館の緑がもっとも美しくなる時期でもあります。今後さらに地域に開かれた学会としての展開を図るべく、県外からの来訪者にも博物館の展示等を見て頂けるような、歴史やアートにふれることもできる市民公開講座にもぜひご参加ください。

【市民公開講座】

テーマ：「医療につながる分子生物学（仮）」

日 時：2010 年 6 月 6 日(日) 13：00～16：30（予定）

会 場：仙台市博物館 講堂

（市内、仙台駅よりバスで約 10 分）

定 員：200 名

参加費：無料（ただし、博物館の常設展観覧料は有料）

プログラム：講演 片桐 秀樹

（東北大学大学院医学系研究科）

岡野 栄之（慶應義塾大学医学部）

総合討論 片桐教授×岡野教授

（司会：大隅）＋フロアから

日本分子生物学会 第 10 回春季シンポジウム

世話人 大隅 典子（東北大学大学院医学系研究科）



日本分子生物学会第10回春季シンポジウム

分子を語る、分子で語る

基 調 講 演：菅 裕明(東京大学)
「遺伝暗号リプログラミング：
生物の根底を書き換える」

山本雅之(東北大学)
「環境応答の分子基盤」

ワークショップ：公募中

ポスター発表：演題募集
(登録期間 2010.1/25_{mon}～4/16_{fri})

2010. ⁶/₇_{mon} - 8_{tue}

The Molecular Biology Society of Japan



市民公開講座

「医療につながる分子生物学」

日 時：2010.6/6_{sun}

会 場：仙台市博物館

基調講演：岡野栄之(慶應義塾大学)
片桐秀樹(東 北 大 学)

■世話人：大隅典子(東北大学大学院医学系研究科)

■事務局：特定非営利活動法人 日本分子生物学会 事務局
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-5 20山京ビル11階
TEL:03-3556-9600 E-MAIL:info@mbsj.jp
<http://www.mbsj-spring2010.org/>

■会 場：ホテル松島大観荘(宮城県宮城郡松島町)
TEL.022-354-5214 交通のご案内／仙台駅から電車で30分
<http://www.talkanso.co.jp/>

学会誌『Genes to Cells』に関するお知らせ

編集幹事 上村 匡

【収支報告について】

契約内容を抜本的に見直した改定版の契約書締結以降、はじめてとなる収支報告（2008 年分）が出版社よりなされ、学会誌発行に掛かる学会の収支が大幅に改善されたことをご報告いたします。

これは、創刊以来『Genes to Cells』を国際的なジャーナルとすべく尽力されてきた歴代の編集長および編集委員の先生方、編集室や事務局の皆様、加えてご投稿して下さった皆様のお力添えによるものと感謝申し上げます。

引き続き、ジャーナルのステータス向上を目指した出版活動を継続してまいります。

【編集体制等について】

第 16 期の理事会において新たに設置された、「Genes to Cells 将来計画ワーキンググループ」の第 1 回会合が 2009 年 3 月 31 日(火)に名古屋で行われ、著者負担による論文オープンアクセスの選択肢を設けること、投稿規定の見直しを図ること、編集委員の大幅な入れ替えを行うことなど活発な議論がなされました。

出版社とも協議を重ね、著者が所定の費用を負担することで、出版から半年を待つことなくオープンアクセスに設定可能な「Online Open」を 9 月 18 日より導入いたしました。これにより、優れた論文の国際競争力がさらに高まることを期待しています。

また、投稿規定の改定および編集委員の追加も行いました。新しく加わって頂きました編集委員の先生方は次の通りです。[50 音順、敬称略：小室一成（千葉大・医）、塩見春彦（慶應大・医）、篠原彰（阪大・蛋白研）、白川

昌宏（京大・工）、白髭克彦（東工大・生命理工）、濡木理（東大・医科研）、平岡泰（阪大・生命機能）、宮脇敦史（理研・BSI）]

第 1 回会合出席者：柳田編集長、上村編集幹事、荒木弘之、林 茂生、平岡 泰、宮園浩平、岡田理事長（オブザーバー）

【オンライン版へのフリーアクセスについて】

個人の会員（正会員、名誉会員、学生会員）は、『Genes to Cells』オンライン版のフリーアクセスが可能です。初回の登録手続きを済ませればいつでもアクセスできますので、学会事務局へメールにてお申し込みください。〈info@mbsj.jp〉

【プリント版の会員特別価格購読について】

本学会の会員は、『Genes to Cells』の冊子版を会員特別価格で購読することができますので、この機会にふるってお申し込みください。年間購読料は、クレジットカードでのお支払いも可能です。

2010 年の購読申し込みは、学会ホームページから申込書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ学会事務局へお送りください。サンプルのご依頼にも対応いたします。

2009 年も購読中の方には、継続専用（記入が簡単）の申込書を別途お送りしましたので、そちらをご利用のうえ学会事務局へご返送ください。

※個人価格 16,500 円 / 年（正会員と学生会員が対象）

機関価格 35,000 円 / 年（賛助会員のみが対象）

男女共同参画委員会活動報告

男女共同参画委員会 委員長 杉本亜砂子
副委員長 篠原 彰

1. 女子中高生夏の学校

今年で5回目となった「女子中高生夏の学校 2009～科学・技術者のたまごたちへ～」は、科学者・技術者との対話、交流を通して女子中高生が科学・技術分野に自分の新しい可能性を見出すことをねらいとした、合宿形式の体験型サイエンスプログラムです。このイベントは、理工農系のさまざまな分野の科学者・技術者、学生、教員ら100名規模のボランティア活動によって実施されており、本学会はイベントの設立当初より協力を続けております。

今回も福田公子会員による実験企画（様々な動物に共通するタンパク質のアミノ酸配列から、コンピューターソフトMEGAを使って系統樹を作成し、動物を分類する）の提供をはじめ、本間典子会員が講師としてレクチャーを行うなど、数ヶ月にわたる準備の段階から当日の運営まで、スタッフとして参加しました。また、遺伝子組換え技術に関するポスター展示と小実験（DNAの抽出）を吉田拓実会員と奥田郁美氏（株リバネス）の協力を得ておこない、女子生徒だけでなく保護者、引率教員、JST職員参加者からも大変好評を博しました。

夏学イベントにおいて、例年、女子中高生の生命科学分野に対する関心は大変高いものがありますが、今回のように実際に研究にたずさわっている研究者から、実験やポスターを通して直接説明を受け、最先端の研究が社会でどのように活用されているかを知ることが、本学会に興味を持つ大きなモチベーションとなるようでした。

学会としてこのような企画に参加することは若い世代の教育にも重要であるため、今後も続けて行きたいと思えます。イベントの詳細は、夏の学校HPでも紹介しておりますので、ご覧ください。（<http://www.natsugaku.com/index.html>）

2. 男女共同参画学協会連絡会関連活動報告

男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが、10月7日、東京工業大学の蔵前会館（TOKYO TECH FRONT）にて開催されましたので、ご報告いたします。今年のシン

ポジウムは「持続可能社会と男女共同参画」をメインテーマとし、科学・技術の発展と多様性に富む持続可能な社会の実現に向けて、女性研究者の活躍促進とその支援策について探ることを目的として、企画されました。

午前中に二つの分科会（テーマ：学協会での男女共同参画のとりくみ、若手研究者の異分野交流とネットワーク作り）が行われ、午後は、学協会連絡会の初代委員長である小館香椎子氏による講演と、企業の立場からの女性研究者・技術者への期待について、2つの講演が行われました。どの企画においても理系の多岐にわたる分野から演者が招かれ、今後の活動について様々な視点からの意見が出されました。

また、1日を通して各学協会からのポスター展示が行われ、本学会からは、大杉美穂会員が作成したポスターを出展しました。参加者の多くが集るポスターセッションの時間には、学会員数や男女比の最新データを用いた分子生物学会のポスターが参加者の興味を集めました。

3. 第32回年会男女共同参画ランチョンワークショップ開催のお知らせ

毎年多くの方に参加いただいている、年会での男女共同参画企画のランチョンワークショップを今年も開催いたします。

日 時：2009年12月9日(水) 11:45～13:00

会 場：パシフィコ横浜 会議センター3階 303

テーマ：『女性リーダーが増えるには何が必要か～「制度改革」だけでは変わらない現状をふまえて～』

今年は、大阪大学社会経済研究所の大竹文雄氏を迎え、「男女間の昇進格差はなぜ発生するのか？」というタイトルで講演いただく予定です。その後、大竹氏をはじめ、鳥居啓子氏（Washington 大学）、山本正幸氏（東大）、島田純子氏（JST 男女共同参画担当）によるパネルディスカッションを企画しています。

また、今年の年会で演題登録する際に協力いただいた、演題投稿者の属性調査についてのポスターを作成し、公表する予定です。

第 1 回将来計画検討委員会報告

2008 年 12 月開催の理事会において「学会のあり方(学会の将来像)」についての議論がなされました。学会の将来像についてきちんと議論すべき時期に来ている、との認識の確認がなされ、第 16 期理事会においては将来計画検討委員会を設置し、詳細検討を行うことが決まりました。委員長の委嘱と委員会構成については、岡田清孝理事長に一任されておりました。

このたび、理事長からの委嘱を受け、正式に将来計画検討委員会が構成され、その第 1 回委員会が東京で開催されましたので、その概要を報告いたします。

【第 16 期・将来計画検討委員会 構成メンバー】

山本正幸（委員長）、荒木弘之、篠原 彰、杉本亜砂子、水島 昇、宮園浩平

【概要報告】

第 1 回委員会は 2009 年 9 月 13 日に東京で開催されました。出席者は上記の委員全員と、オブザーバとして岡田理事長、執行部から石野史敏庶務幹事が参加しました。

第 1 回会合では、本委員会に課せられた下記ミッションの確認と、活発な議論がなされました。

○本委員会に課せられた検討課題

- ・基礎科学の現状認識とそれに対する学会の役割について
- ・国際対応について
- ・社会との関わり
- ・男女共同参画の推進（女性理事をいかに増やすか）
- ・理事選挙投票率を高める問題
- ・年会のあり方（開催スタイル、年会収支の確認、年会長と理事会との責任分担、等々）

12 月開催の定例理事会までに、数回の委員会を開催し（メール審議も併用）、次回理事会において中間答申が出せるように委員会活動を行っていく予定です。

2009 年 9 月 15 日
将来計画検討委員会・委員長 山本 正幸

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.93（6月号）に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計6部
- 3) 申込受付確認のための返信封筒（返信用の宛名を記入しておいて下さい）
- 4) 論文（別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です）

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 田畑 哲之
〒102-0072 千代田区飯田橋 3-11-5

20 山京ビル 11 階

日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 町田 泰則

〒102-0072 千代田区飯田橋 3-11-5

20 山京ビル 11 階

日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がございましたら、学会事務局までお問合わせ下さい。

4. 留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いします。

各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○第10回日本蛋白質科学会年会

会 期：2010年6月16日(水)～18日(金)

会 場：札幌コンベンションセンター

(札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)

年 会 長：田中 勲

(北海道大学 大学院先端生命科学研究院)

事前参加・演題募集時期：

2010年2月末を予定しています。

第10回年会でも、優れた発表にポスター賞(学生対象)、若手奨励賞(ポスドク、助教クラスを対象)を授与致します。該当する方は奮ってご応募ください。

プログラム：

詳細は、蛋白質科学会年会ホームページ

(<http://www.aeplan.co.jp/pssj2010/>)をご覧ください。

お問い合わせ先：

第10回日本蛋白質科学会年会事務局

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-4-63

新大阪千代田ビル別館9階

(株エー・イー企画大阪オフィス内)

URL：<http://www.aeplan.co.jp/pssj2010/>

E-mail：pssj2010@aeplan.co.jp

Tel：06-6350-7163 Fax：06-6350-7164

○千里ライフサイエンス国際シンポジウム

「2010 Senri Life Science International Symposium on "Future Outcome of Stem Cell Research Today"」

■日 時 平成22年1月18日(月) 10:00～17:00

■場 所 千里ライフサイエンスセンタービル5階

ライフホールおよびサイエンスホール

■コーディネーター

西川 伸一(理化学研究所発生・再生科学統合研究所
グループディレクター)

山中 伸弥(京都大学物質・細胞統合システム拠点・
iPS細胞研究センター センター長)

■プログラム

10:00-10:10 Opening address

Tadamitsu Kishimoto (President of Senri
Life Science Foundation)

10:10-11:00 "Induction of pluripotency by defined
factors"

Shinya Yamanaka (Kyoto University)

11:00-11:50 "Genetic modification and differentiation of
human embryonic stem cells-creating
tools for regenerative medicine"

Andrew Elefanty (Monash University)

11:50-13:00 Lunch

13:00-13:50 "Directed differentiation of pluripotent
stem cells"

Gordon Keller (University Health Network)

13:50-14:40 "Motor neuron progenitor cell replacement
therapy for spinal cord injury and disease"

Hans S. Keirstead (University of California
at Irvine)

14:40-15:10 Brake

15:10-16:00 "iPS cell technologies for studies on CNS-
regeneration and disease mechanisms"

Hideyuki Okano (Keio University)

16:00-16:50 "Using stem cells and reprogramming to
study disease"

Kevin Eggan (Harvard University)

16:50-17:00 Closing address

Shin-Ichi Nishikawa (Riken Center for
Developmental Biology)

17:15-18:30 Get-acquainted reception at Senri
Room(Senri Life Science Center Building
6th floor)

■使用言語 英語

■申込要領 氏名、勤務先、所属、〒所在地、電話番号、
Eメールアドレスを明記の上、Eメールで
下記宛お申し込み下さい。件名は「千里ラ
イフサイエンス国際シンポジウム」として
下さい。

■定 員 300名(参加人数によりライフホールが満
席となった場合、サイエンスホールにて中
継画像による視聴をお願いする場合もあり
ますのでご了承下さい)

■締 切 2009年12月25日

※定員になり次第締め切らせて頂きます。

■参 加 費 講演会・懇親会ともに無料

■申 込 先 (財)千里ライフサイエンス振興財団国際シン
ポジウム係

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル20階

E-mail：sng@senri-life.or.jp

TEL：06-6873-2001

URL：<http://www.senri-life.or.jp>

その他

○平成 22 年度新化学発展協会研究奨励金のご案内

(社)新化学発展協会では、基礎研究の推進と研究者の育成を通じて新化学の発展を図ることを目的に、新化学の発展に資する若手研究者の研究に対して、下記に従って研究奨励金を贈呈いたします。

応募される方は、下記の研究課題の中から1つを選び、研究計画を作成し協会事務局まで提出して下さい。課題の説明、応募要項、応募申請書式は、下記協会ホームページから入手できます。

1. 研究課題

- ① 低環境負荷化学プロセス実現のための触媒に関する研究
- ② 架橋反応を伴う高分子の構造形成と物性、適用に関する研究
- ③ エネルギー・環境分野における新しい素材・部材・機能の創出に関する研究
- ④ 二酸化炭素を利用する化学反応の開拓
- ⑤ 賢ーマテリアル実現のための基礎的・基盤的研究
- ⑥ IT、オプトエレクトロニクス、ナノテクノロジーなどを用いた次世代情報端末に有用なデバイス・材料の創製および製造プロセス技術の研究
- ⑦ MEMS 分野、ナノバイオ分野ならびにエネルギー・環境分野における新たな機能を有する材料研究または新たな機能を発現するデバイスの研究

- ⑧ 生体分子を新規な機能性材料として実用化することを目指した研究
- ⑨ 効率的な化学品製造を可能とするバイオプロセスの高度化に関する研究

2. 応募資格

大学またはこれに準ずる研究機関において研究活動に従事する者で、39 歳以下（昭和 45 年 4 月 1 日以降に出生）の者。

3. 件数および金額

上記各研究課題につき原則として 1 件とし、1 件につき 100 万円を贈呈します。（件数は 10 件を予定）

4. 応募締切

平成 22 年 1 月 31 日(日)必着のこと。

問い合わせ先・応募申請書掲載先

社団法人 新化学発展協会 研究奨励金係

〒 101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-12

(山萬ビル 4 F)

TEL 03-5297-8820

FAX 03-5297-8821

E-mail aspronc@aspronc.org

URL <http://www.aspronc.org>

第16期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

岡田 清孝 (基生研)

副理事長

鍋島 陽一 (京大・医)

町田 泰則 (名大・理)

理事

相沢 慎一 (理研・CDB)

審良 静男 (阪大・微研)

上村 匡 (京大・生命)

貝淵 弘三 (名大・医)

片山 勉 (九大・薬)

小安 重夫 (慶應大・医)

篠崎 一雄 (理研・PSC)

白髭 克彦 (東工大・生命理工)

田畑 哲之 (かずさDNA研)

永田 恭介 (筑波大・基礎医学)

正井 久雄 (都臨床研)

水島 昇 (東医歯大・医歯)

山中 伸弥 (京大・再生研)

渡邊 嘉典 (東大・分生研)

饗場 弘二 (鈴鹿医療大・薬)

荒木 弘之 (遺伝研)

大隅 良典 (東工大・統合研究院)

影山龍一郎 (京大・ウイルス研)

加藤 茂明 (東大・分生研)

塩見 春彦 (慶應大・医)

篠原 彰 (阪大・蛋白研)

杉本亜砂子 (理研・CDB)

辻本 賀英 (阪大・医)

長田 重一 (京大・医)

升方 久夫 (阪大・理)

柳田 充弘 (京大 / 沖縄科学技術研究機構)

山本 正幸 (東大・理)

監事

小川 智子 (岩手看護短大)

吉川 寛 (阪大 / 奈良先端大、名誉教授)

幹事

庶務幹事 石野 史敏 (東医歯大・難治研)

会計幹事 塩見 春彦 (慶應大・医)

編集幹事 上村 匡 (京大・生命)

広報幹事(HP) 加藤 茂明 (東大・分生研)

集会幹事(年会) 小林 武彦 (遺伝研)

宮園 浩平 (東大・医)

Genes to Cells 編集長 柳田 充弘 (京大 / 沖縄科学技術研究機構)

Genes to Cells 将来計画ワーキンググループ 荒木弘之、林 茂生、平岡 泰、宮園浩平

賞推薦委員会

田畑哲之 (委員長)、大隅良典、小安重夫、篠崎一雄、辻本賀英

研究助成選考委員会

町田泰則 (委員長)、荒木弘之、貝淵弘三、影山龍一郎、升方久夫

男女共同参画委員会

杉本亜砂子 (委員長)、篠原 彰 (副委員長)、井関祥子、漆原秀子、大隅典子、大杉美穂、金井正美、田畑哲之、福田公子、本間美和子、松尾 勲、松崎文雄、大坪久子 (アドバイザー)

研究倫理委員会

柳田充弘 (委員長)、小原雄治、田中啓二

〈研究倫理委員会下部組織〉

若手教育問題

中山敬一 (WG 座長)、上田泰己、上村 匡、加藤茂明、後藤由季子、

ワーキンググループ

白髭克彦、水島 昇、山中伸弥

学術事業企画委員会

永田恭介 (委員長)、伊藤耕一、稲田利文、入江賢児、塩見春彦、島本 功、菅澤 薫、中尾光善、林 茂生、三浦正幸、渡邊嘉典

将来計画検討委員会

山本正幸 (委員長)、荒木弘之、篠原 彰、杉本亜砂子、水島 昇、宮園浩平

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2009 年 11 月 1 日現在)

アサヒビール株式会社 食の基盤技術研究所
アジレント・テクノロジー株式会社
アトー株式会社 営業開発グループ
アプライドバイオシステムズジャパン株式会社
株式会社エー・イー企画
科学技術振興機構 研究基盤情報部 バイオインフォマティクス課
科研製薬株式会社 創薬研究部
協和発酵キリン株式会社 研究本部研究推進部
株式会社コクサン
コスモ・バイオ株式会社 開発部
産業技術総合研究所 北海道センター図書室
ジャスコインタナショナル株式会社 第二事業部営業課
住友化学株式会社 農業化学品研究所
第一三共株式会社 抗体医薬研究所
タカラバイオ株式会社 バイオインダストリー部
武田バイオ開発センター株式会社 プロジェクトマネジメント部
株式会社ダスキン開発研究所
田辺三菱製薬株式会社 研究本部研究企画部
東洋紡績株式会社 ライフサイエンス事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 技術営業部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 BD バイオサイエンス
日本たばこ産業株式会社 植物イノベーションセンター
日本たばこ産業株式会社 たばこ中央研究所
浜松ホトニクス株式会社 システム事業部特機営業部
ヒゲタ醤油株式会社 研究開発部
日立公共システムエンジニアリング株式会社
富士レビオ株式会社 研究開発部門研究支援グループ
フナコシ株式会社
三菱化学株式会社 イノベーションセンター
ヤマサ醤油株式会社 R&D 管理室
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 AS 事業部
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
和研薬株式会社 大阪センター営業推進部

〈50 音順〉

新会員管理システムへの移行に伴ない、2007 年に、新しい会員番号（数字 6 桁）とパスワードが付与されております。パスワードを紛失、もしくは忘れられておられる場合には、学会ホームページにアクセスいただき、パスワード再発行のお手続きをお取りくださるようお願い申し上げます。

【ログイン ID とパスワードの発行について】

<http://www.soc.nii.ac.jp/mbsj/secretariat/member/>

〈パスワードの再発行〉

■第 32 回（2009 年）日本分子生物学会年会の公式サイト

URL: <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2009/>

特定非営利活動法人

日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-5

20 山京ビル 11 階

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: info@mbsj.jp

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年3回刊行)

第94号 (2009年11月)

発行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——岡田 清孝